

CSR 報告書 2013



美しい地球の未来に……



適切に管理された森林で生産された木材を使った環境配慮型のFSC認証紙を使用しています。



この印刷物に使用している用紙は、森を元気にするための間伐と間伐材の有効活用に役立ちます。



国産材の利用を促進する「木づかい運動」を応援しています。



この印刷物は植物油インキを使用しています。



有害な廃液が出ない水なし印刷方式で印刷しています。



見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。



企業理念

**TANAKAグループは、
貴金属のリーディングカンパニーとして、
創造性あふれる技術力をもって、
お客様の信頼と期待に、スピーディーに応え、
貴金属がもたらすゆとりある豊かな社会の実現と、
美しい地球の未来に貢献します。**

行動指針

TANAKA人 5カ条
私たちは、お客様から選ばれ続けるため、
常に感動を創出し、謙虚に学ぶことを忘れず、
日々、5カ条を実行します。

- 1.あいさつ *Greetings* 心を込めた挨拶で、信頼の絆を結びます。
- 1.えがお *Smile* 明るくのびのびと、笑顔で輝き続けます。
- 1.かんしゃ *Thanks* 感謝の心で、ゆたかな人間力を育みます。
- 1.あんぜん *Safety* 安全を最優先し、最高の仕事をします。
- 1.ちょうせん *Challenge* 柔軟な発想で挑戦し、夢を実現します。

TANAKA



TANAKAグループでは2012年10月に掲げた
新たな企業理念および行動指針の下、
日々社員のコミュニケーション向上を図りながら、
全社一丸となった事業活動を続けております。
本年度はさらにこのコミュニケーション向上活動を
チャレンジシップと命名、シンボルとなるマークを作成し、
本活動をより活発に進めています。

TANAKAグループの事業

産業用製品



産業の発展を支える貴金属の可能性を最大限に追求しています。近年は、世界的に重要度の高まる医療や環境・エネルギーの領域に注力しています。

- Au-Ag系事業
- 化学回収事業
- PGM系事業
- HDターゲット事業
- 触媒開発事業
- BW事業
- メッキ事業



宝飾用貴金属

人生のさまざまなシーンを輝かせる宝飾品を、長く愛するにふさわしい確かな品質で提供しています。

- ジュエリー
- 工芸品
- 記念品・贈答品
- 買取・リサイクル



資産用地金

貴金属を資産としてご活用いただくために、確かな品質の金やプラチナの地金(じがね)やコインを製造・販売するほか、積立プランも提供しています。

- 地金(じがね)
- 金貨・コイン
- 積立プラン



TANAKAは、ロンドン地金市場協会(LBMA)より、金および銀の公認審査社に任命されています。また、ロンドン・プラチナ・パラジウム・マーケット(LPPM)の公認審査社にも任命されています。どちらも、世界でTANAKAを含む5社のみ(国内ではTANAKAのみ)が、貴金属の公認溶解業者の溶解技術・分析能力を審査する使命を担っています。

CONTENTS

02 トップメッセージ

04 TANAKAグループの事業拠点

06 組織統治
●コーポレート・ガバナンス
●CSRマネジメント

08 人権
●人権の尊重

09 労働慣行
●雇用・人材育成
●安全衛生

12 環境
●環境マネジメント
●事業活動と環境負荷の状況
●環境負荷低減への取り組み

16 公正な事業慣行
●コンプライアンス

18 消費者課題
●お客様への対応

20 コミュニティへの参画
●社会貢献活動

22 セキュリティ・BCP/M・リスクマネジメント

23 財務情報／本報告書について

24 第三者所感

25 アンケート結果

新たな経済環境の中で、事業の継続発展に向けた舵取りを行いながら、有事への備えも強化しています。ジャパンパラ協賛をはじめとする社会貢献活動にも注力し、“人が輝き、社会に輝きを与える”企業へと前進しています。

東日本大震災から2年が経過しました。その傷跡が残る中、東北の被災地では現地の方々在必死に自分達の生活を取り戻すべく尽力されておりますが、その力強さには心から敬意を表します。

福島原発付近で依然自宅に戻ることができず、各地で仮住まいをされている方々には、一日も早く帰宅が実現できることをお祈り申し上げます。

さて、2012年は山中教授のノーベル生理・医学賞の受賞、ロンドンオリンピックでの日本人選手の活躍、東京スカイツリーの開業など、日本全体が震災のショックから立ち直りつつあることを示すように、続々と明るいニュースが入ってきました。

しかし一方、中国での鳥インフルエンザ[H7N9型]の感染が広がり、アルジェリアで日本人10人が犠牲となるテロ事件の発生、北朝鮮による小型の核弾頭の開発とそれを搭載するミサイルの発射実験、尖閣諸島をめぐる中国との関係悪化、ボストンの爆弾テロ等様々な事件が発生しており、今年も予断を許しません。

当グループにおきましても、2011年度後半から続く厳しい経済環境の中、主力工業製品の受注の減少が続いておりますが、一方では貴金属価格の上昇により、資産用地金の売買、特に「RE:TANAKA」と命名しておりますお客様が所有する地金装飾品の買取り事業は、これからの当グループの重要な事業になるべく成長が期待できる分野となっております。また宝飾用部門ではウォルトディズニー生誕110周年記念純金小判等、ディズニー社とコラボした商品の販売や、バルセロナのメッシ選手の黄金の左足(実物大)を制作展示、販売するなど、お客様に喜んでいただけるような様々な企画を行いました。さらに新たな高級ブランドとの提携、通販やネット販売の拡充も計画しており、お客様に＜心弾む瞬間＞を提供できるよう努力しています。

TANAKAグループでは大震災以降も、BCP(事業継続計画)を意識した活動を行ってまいりましたが、さらに事業継続に対する認識を強くする必要があると感じています。

その一つとして、従来当グループでは

- ①「社員教育の強化」
- ②「*e-チャレンジ強化」
- ③「不安全撲滅」

という3本柱を方針として活動していましたが、2013年度は新たに

- ④「事業の選択と集中」
- ⑤「CSRとBCPの強化」

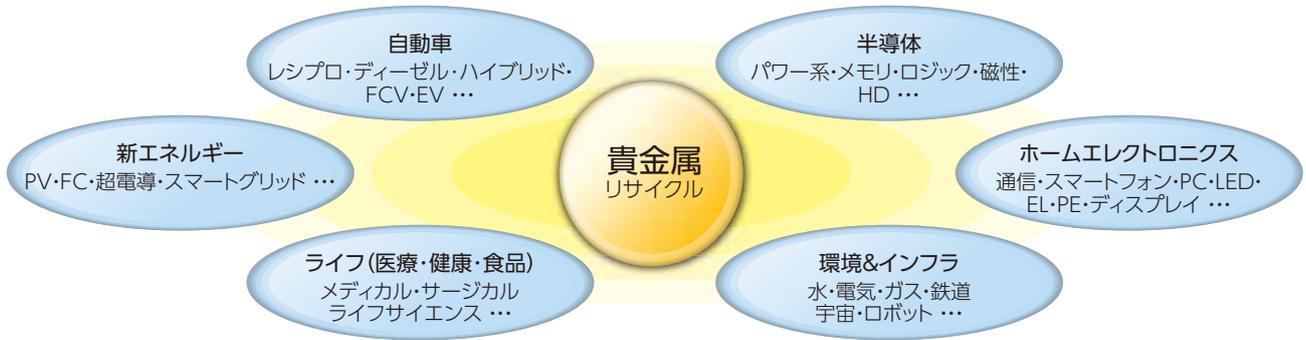
という2本の柱を加え、合計5本柱として活動することを決めております。

①「社員教育の強化」につきましては、事業継続の根幹は人であるという考えのもと、「見る知る教育の実践」を計画しております。以前より“いざ鎌倉”を合言葉に、グループ内の忙しい部署へ他部署の社員が応援に駆けつけていましたが、その中で応援に行った社員から、不慣れな仕事で疲れたという感想よりも、意外にも「色々体験できて結構楽しかった、勉強になった」「様々な人を知った」等の前向きな意見が出ておりました。これを教育という観点で見直し、社員育成のために積極的に他部門を応援させる手法を採用する事としました。

②「e-チャレンジ強化」につきましては、将来のTANAKAグループの事業の柱を作り上げる事を目的とし、「自動車」、「半導体」、「ホームエレクトロニクス」、「環境&インフラ」、「ライフ(医療、健康、食品)」、「新エネルギー」の6つの市場にチャレンジしていくこととしました。

③「不安全撲滅」について、昨年度は社員の方々の努力により、不安全状態、不安全行動の削減が進み、年々事業場内での事故・災害発生が減少しております。しかしながら目標とする「事故半減」には残念ながら未達の状況です。CSR推進部には、より強力な「不安全状態排除」「不安全行動撲滅」の活動を指示しております。一方、交通事故は増加の一途をたどっており、根本的な対策が急務です。現在、これまでに発生した交通事故について「加害か?被害か?」「年齢別」「性別」「自動車の色」「事故発生時間」など、様々な角度から分析を行っております。また「自動車通勤者への車後部貼付用追突防止ステッカー作成」など

e-チャレンジ / TKG新規事業に向けた6大ターゲット市場



の対策を実施中です。

④「グループ活動の選択と集中」TANAKAグループは現在「産業用」と「資産用」と「宝飾用」という3つの事業がありますが、特に「産業用での選択と集中」を目的に活動中です。本年9月までに具体的に「強化するもの」「現状維持の状態にとどめるもの」「撤退するもの」を分類する予定です。これはもちろん産業用事業のみでなく資産用事業、宝飾用事業、さらには間接部門へも応用できるものと考えています。すなわち「必要なこと、やるべき事を選び出し集中的に対応する」ことは日々の3S(整理・整頓・清掃)と同じ考え方であり、事業継続のための3Sといえます。

最後の⑤「BCP強化」ですが、昨年は震災対策として、「大阪本社立ち上げと、経営層が2組に分かれて東京と大阪に交替で常駐する制度(参勤交代制度)によるBCP運用」「コンピューターシステムの首都圏と関西の2拠点体制」あるいは「貴金属材料備蓄」「お客様への納品確保のための製品在庫積み上げ」「湘南地区の物流ライン確保のための軽油備蓄」など様々な対策を実行してきました。今年、河川に近い湘南工場の防潮堤設置を計画しています。

TANAKAグループでは、社会貢献活動を事業継続の目的の一つとして位置づけています。2012年度は誠実でコツコツとチャレンジする心を応援したいとの考えのもと、JPC(日本パラリンピック委員会)のオフィシャルパートナーとなり、ロンドン2012パラリンピック日本選手団の

活動に協賛しました。特にジャパンパラは、国内大会などの報道機会も増えて、理解は深まっているのですが、他競技に比べて十分な認識が得られておらず、スポンサーが集まりにくいと、選手の方々の活動に制限がありました。今回、オフィシャルパートナーとして協賛したことが、日本選手の強化につながったと実感しております。

また高等専門学校のロボットコンテスト(高専ロボコン)の趣旨に賛同し、応援メッセージ「君のひらめき輝かせ!未来へ発進!」を掲げ、日本のもの造りの未来を担う若者をサポートすることとしました。

今回高専の生徒の方々に応援することにより、将来の日本のもの造りの一端を担えればと願い協賛しましたが、私が実際に応援に赴いた大会では、我を忘れるほどその熱意に圧倒されました。

最後に今年のはじめにTANAKAグループの社員に対する思いを書き初めにしました。この書には「丸くなるな。個性を持ってとんがれ。そして、一人ひとりが輝く笑顔のスターであれ」という思いを込めております。TANAKAグループは、「人が輝く企業は、社会に対しても輝きを与える」と信じ今後もCSR活動を推進していきたいと考えております。



※「e-チャレンジ」とは全社員が、自らがチャレンジする業務をテーマ登録し、その進捗、成果とそれに対する評価を明確にする事を目的として命名したTANAKAグループ独自の活動のことです。「e」はevolutionの略で、常に革新的なチャレンジを続ける事を意識した活動です。



TANAKAホールディングス株式会社
代表取締役社長

岡本英彌



TANAKAホールディングス株式会社 (THD)

田中貴金属グループを統括する持株会社

本社：① 東京 丸の内
大阪本社：② 大阪



田中貴金属工業株式会社 (TKK)

各種貴金属工業製品および
貴金属地金の製造・研究開発

本社：① 東京 丸の内
流通センター：⑬ 湘南管理センター



② 岩手工場

・クラッド材 ほか



③ 富岡工場

・線材、板材 ・リベット型複合接点 ・貴金属パイプ加工
・銀ろう ・金、銀ターゲット ほか



④ 市川工場

・白金族系貴金属回収・精製
・白金族系貴金属化合物 ・各種媒体の製造 ほか



⑤ 袖ヶ浦工場

・白金族系貴金属回収・精製



⑥ 伊勢原工場

・白金系素材加工 ・ガラス溶解用白金装置
・各種センサ用材料 ・白金系ターゲット ほか



⑦ 平塚工場

・クロスバー型電気接点
・電子部品用材料 ・融着加工品 ほか



⑧ 湘南工場

・金銀系貴金属回収・精製、回収装置 ・金銀系貴金属化合物
・不溶性電極 ・各種めっき加工 ・厚膜ペースト



⑨ 筑波事業所(テクニカルセンター)

・化学系技術開発
・白金系ターゲットの製造



⑩ 平塚テクニカルセンター

・貴金属を用いた高機能材料の開発
(医療、自動車、エネルギー分野)



⑪ 伊勢原テクニカルセンター

・高機能材料の開発



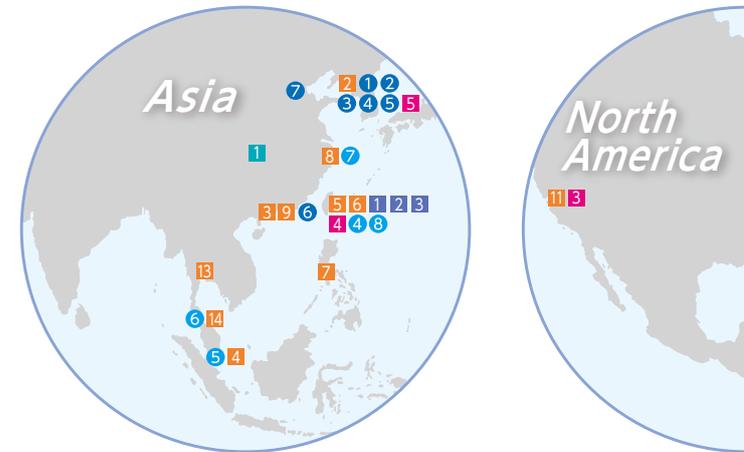
⑫ FC触媒開発センター

・燃料電池用電極触媒の開発／製造



世界におけるTANAKA

TANAKAグループは、3つの主要事業(工業製品、宝飾用、研究開発・生産・販売等の拠点を、日本およびアジア諸国、



田中貴金属インターナショナル株式会社 (TKI)

田中貴金属グループ製品の輸出入販売

本社：① 東京 丸の内
海外拠点：② ソウル支店

③ 香港支店

④ シンガポール支店

⑤ 台北支店

⑥ 高雄営業所

⑦ マニラ駐在員事務所

⑧ 田中貴金属(上海)有限公司

⑨ // 深圳分公司

⑩ 田中貴金属インターナショナル(アメリカ)

⑪ // サンノゼ支店

⑫ 田中貴金属インターナショナル(欧州)(ドイツ)

⑬ 田中貴金属インターナショナル(タイランド)

⑭ 田中貴金属インターナショナル(マレーシア)



田中貴金属販売株式会社 (TKH)

田中貴金属グループ製品の国内販売

本社：① 東京 丸の内

国内拠点：② 仙台支店

③ 水戸支店

④ 横浜支店

⑤ 長野支店

⑥ 名古屋支店

⑦ 京都支店

⑧ 大阪支店

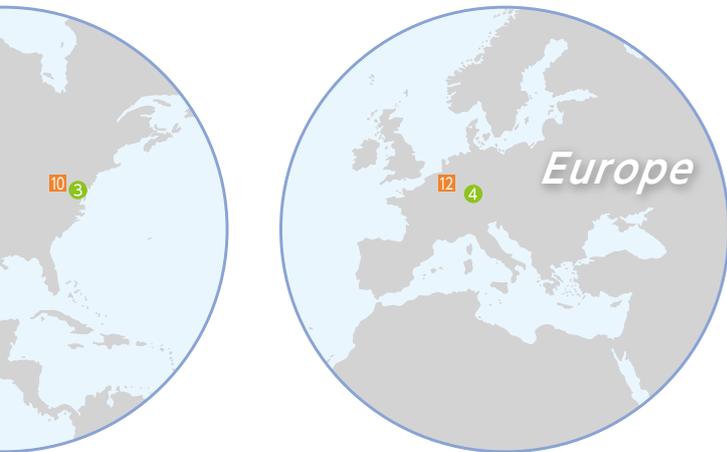
⑨ 岡山支店

⑩ 福岡支店

⑪ 滋賀営業所



資産用)における
北米、欧州に展開しています。



台湾田中貴金属工業股份有限公司 (T-TKK)

各種電気接点、線材加工、回収・精製

本 社：① 台北(台湾)
工 場：② 新竹(台湾) ③ 湖口(台湾)



田中貴金属ジュエリー株式会社 (TKJ)

ゴールド・プラチナジュエリー、インポートジュエリー、
ブライダルジュエリー、工芸品、リフォーム、
各種記念品の販売、貴金属地金・コインの売買、
RE:TANAKA(貴金属製品の買取り)

店 舗：GINZA TANAKA

- ① 銀座本店
- ② 新宿店
- ③ ホテル椿山荘東京店
- ④ 横浜元町店
- ⑤ 仙台店
- ⑥ 名古屋店
- ⑦ 栄店(ブライダル専門店)
- ⑧ 心斎橋店
- ⑨ 福岡天神店



田中貴金属ビジネスサービス株式会社 (TKBS)

田中貴金属グループの間接業務の委託及び管理
本 社：① 東京 丸の内



田中電子工業株式会社 (TD)

各種ボンディングワイヤの開発・製造
顧客への技術支援・サービスの提供

本 社：① 東京 丸の内
工 場：② 佐賀 ③ 湘南分工場
事 業 所：④ 台湾テクノカルセンター



田中エレクトロニクス・シンガポールPte.Ltd. (TES)

各種ボンディングワイヤの開発・製造
顧客への技術支援・サービスの提供

本 社：⑤ シンガポール



田中エレクトロニクス・マレーシアSdn.Bhd. (TEM)

各種ボンディングワイヤの開発・製造
顧客への技術支援・サービスの提供

本 社：⑥ ペナン(マレーシア)



田中電子(杭州)有限公司 (TEC)

各種ボンディングワイヤの開発・製造
顧客への技術支援・サービスの提供

本 社：⑦ 杭州(中国)



台湾田中電子股份有限公司 (TET)

各種ボンディングワイヤの開発・製造
顧客への技術支援・サービスの提供

所 在 地：⑧ 中壢(台湾)



日本エレクトロプレイティング・
エンジニアーズ(株) (EEJA)

貴金属めっき液をはじめとする各種表面処理剤や
めっき装置、検査装置等の製造販売及び研究開発

本 社：① 東京 丸の内
事 業 所：② 平塚
研 究 所：③ カリフォルニア(アメリカ) ④ 新竹(台湾)
⑤ 仁川(韓国)

ティーシーキャタリスト株式会社 (TCC)

ガソリン及びディーゼルエンジンの
排ガス浄化用触媒開発・製造・販売

本 社：① 東京 丸の内
研 究 所：② 筑波
(田中貴金属工業(株) 筑波事業所内)



喜星金属株式会社 (HEESUNG)

各種貴金属製品

本 社 工 場：① 朱安(韓国)
事 務 所：② ソウル(韓国) ⑤ 道禾(韓国)
工 場：③ 南洞(韓国) ④ 佳佐(韓国) ⑦ 天津(中国)
⑥ 深圳(中国)



株式会社日本ピージーエム (PGM)

使用済みの自動車排ガス浄化用触媒・石油化学
系触媒などからの貴金属回収

本 社：① 東京 秋葉原
工 場：② 小坂(秋田) ④ リベレット(チェコ)
③ ニュージャージー(アメリカ)



OKI 田中サーキット株式会社 (OTC)

プリント配線基板、電子装置および
電子部品の開発、設計、製造及び販売

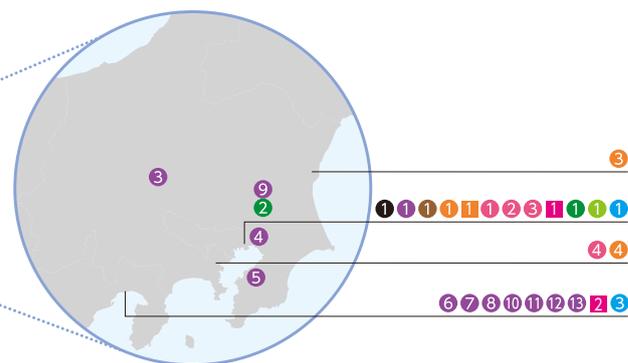
本 社 工 場：① 鶴岡(山形)



成都光明田中環保技術有限公司 (CGTEC)

ガソリン及びディーゼルエンジンの排ガス浄化触媒開発・製造・販売

本 社 工 場：① 成都(中国)





健全な経営を確保するためのガバナンス体制と、ISO26000を基軸としたCSRの推進

TANAKAグループは、健全な企業経営を行うべく、適正な組織で自らの活動を監視し、改善を続けています。そして、グローバルな社会的要請に応えていくために、ISO26000を基軸としたCSR推進に取り組んでいます。

コーポレート・ガバナンス

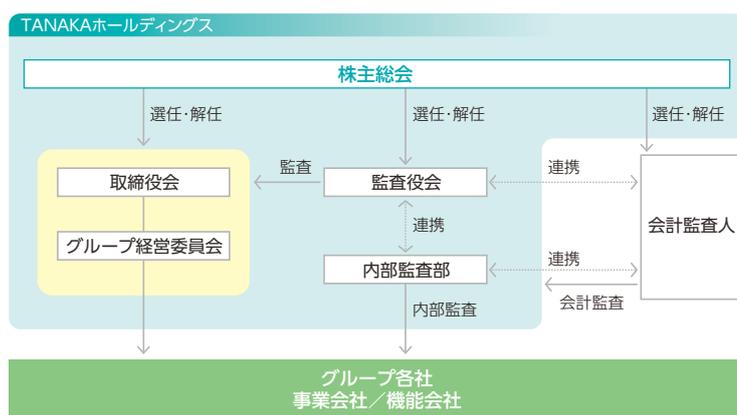
コーポレート・ガバナンス体制と内部統制システム

TANAKAグループは、効率的で競争力のある経営を実現するために、最適な経営体制の構築と適正な企業運営を行うと共に、これを実行するための経営・監視の仕組みを充実させ、健全性・透明性の高い経営に努めています。

TANAKAグループは、お客様・従業員・株主をはじめとする全てのステークホルダーの権利と利益を尊重し、適法かつ妥当な業務執行、適正かつ透明な会計等を実現するための企業経営を行うことを目的に、「コーポレート・ガバナンス及び内部統制原則」を定めています。

この原則に基づき、TANAKAグループの経営目的の達成のために内部統制システムを構築・運用しています。取締役会、グループ経営委員会、内部監査部がそれぞれの役割を確実に実行する仕組みとなっています。

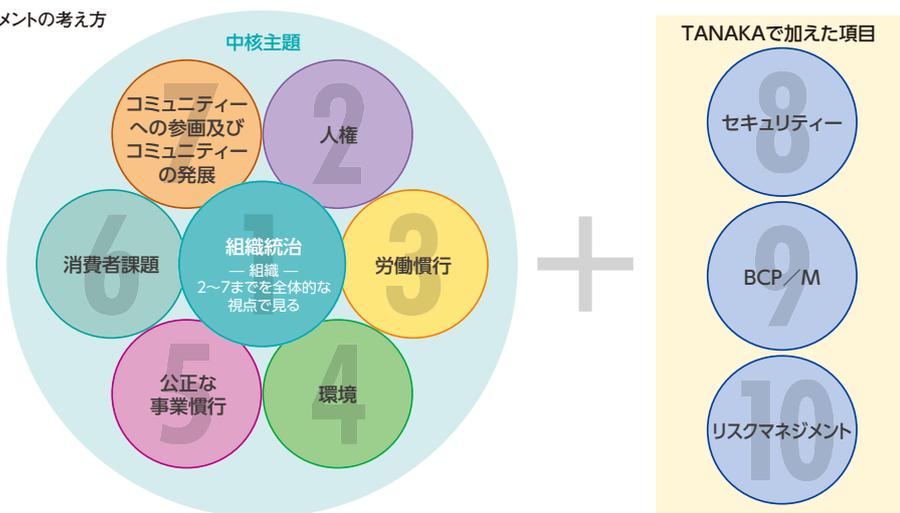
■コーポレートガバナンス体制



内部監査部の取組み

内部監査部は、TANAKAグループ各社の経営目標の効果的な達成に役立つことを目的として、合法性と合理性の観点から公正かつ独立の立場で業務を遂行する組織体制をとっています。リスクマネジメント等の観点より年間監査計画を策定し、これに基づいて、TANAKAグループ各社の業務活動が適正かつ効率的に行われているかを監査し、社内組織に助言や勧告を行っています。その監査結果は、定期的に実施している社長とのミーティングで報告及び施策の提言を行います。加えて年2回監査役との意見交換を行い、監査役会との相互連携を確保しています。

■CSRマネジメントの考え方



CSRに関する考え方

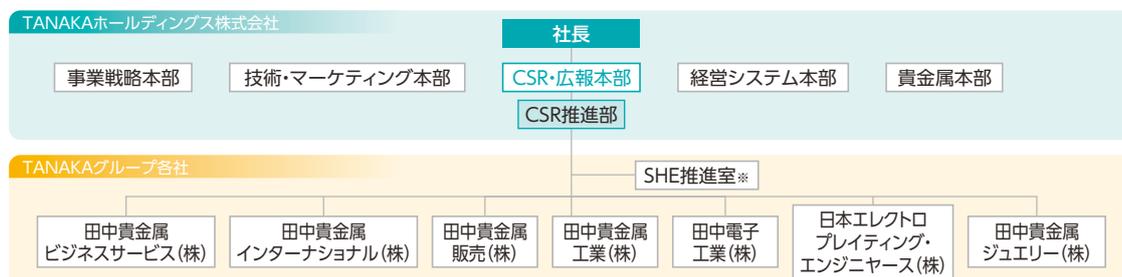
TANAKAグループは、新しい企業理念の下、貴金属のリーディングカンパニーとして、お客様の信頼と期待にスピーディーに応えます。また健全な企業活動を推進し、さらに地域社会の一員としての社会的責任を果たすことに努め、貴金属がもたらすゆとりある豊かな社会の実現と美しい地球の未来に貢献することにより、日本のみならず「世界のTANAKA」としての地位確立を目指します。

昨今のグローバル化に伴い、企業には法令遵守、消費者保護、環境保全、労働環境の整備、人権擁護、地域貢献といった幅広い社会的要請を経営活動に反映させることが求められています。そのためには、企業はステークホルダーに与える影響をこれまで以上に考慮し、CSR活動をより推進する必要があります。

TANAKAグループでは、2012年度から国際的な社会的責任のガイドラインであるISO26000を基軸としたCSR推進活動をスタートしました。ISO26000が示す7つの中核主題は、まさにステークホルダーに対する企業の影響度を図る上で重要な課題であるため、積極的な取り組みを進めています。また、セキュリティ、BCP/M(事業継続計画)、リスクマネジメントの3つをTANAKAグループ独自の課題として加え、本活動をより充実したものとしています。

CSR推進体制

TANAKAグループでは、CSR推進を担う組織を、委員会形式ではなく、経営組織の中にCSR・広報本部、CSR推進部として位置づけ、一部署として責任を持った活動を行っています。



※[SHE推進室]は、各事業所における安全(safety)、衛生(health)、環境(environment)活動の推進組織です。



TANAKA NOW

TANAKAグループでは本年度からCSR・BCPの強化をTANAKAグループの方針の一つとして掲げています。これに伴い従来の経営企画・広報本部をCSR・広報本部と名称を変更し、CSR活動をより推進し、その一つであるガバナンス体制も強化し、企業不祥事を防ぐということ、社会に貢献することも積極的に進めてゆきます。

CSR・広報本部 本部長 池田 収



海外事業展開の拡大を踏まえ、国境を越えて人権尊重の意識を充実。

TANAKAグループでは国内のみならず、海外拠点においても社員一人ひとりが人権尊重を意識した企業活動を行っています。

人権の尊重

基本的な考え方

TANAKAグループは「貴金属のリーディングカンパニー」としてゆるぎない信用と信頼を築くために、健全な事業活動を推進しています。

その中でも人権尊重に関しては、労働基準法の遵守だけでなく、2008年11月に自社で発刊した「行動憲章」、「行動規範」の中で、「あらゆる事業活動の範囲において、基本的人権を尊重し、差別的な取扱をしないこと。」また「児童労働や強制労働を認めないこと」を宣言しています。さらに2009年2月には英語版、中国語版の行動憲章、行動規範を作成、海外のナショナルスタッフにも配布、教育を行い、海外拠点においても人権が尊重される環境を整えています。

さらに昨年度から「あいさつ」、「えがお」、「かんしゃ」、「あんぜん」、「ちょうせん」の5つをTANAKA人5か条と命名し、行動指針としました。この行動指針の下、全社員が一丸となり、今まで以上に人を大切にする企業として活動していきます。



社内通報制度

またTANAKAグループではパワーハラスメントやセクシャルハラスメントなどの人権問題に対応するため社内通報制度を導入しています。社内で発生する人権問題に対して、通報を受けた社内通報委員会が公正な立場の構成員からなる調査チームを立ち上げます。本調査チームは、通報者の立場を尊重しつつ、正確な情報を収集し、社内通報委員会に報告します。社内通報委員会はその報告を受けて、迅速且つ公平な解決を図ります。



TANAKA NOW

「人を大切にする」企業であり続けるための活動に取り組んでいます。

TANAKAグループの掲げる「大家族主義」をモットーに、人事総務部は人事制度、福利厚生、教育・研修といった複数の角度から社員の方を支えられるよう業務に励んでいます。また脈々と築き上げてきた相互信頼の考えを大切にしており、サークル活動の推進や企業風土の活性化活動に携わり、社員のコミュニケーション力の向上を目指しています。改めて、人を尊重する意識作りの重要性を実感しています。

経営システム本部 人事総務部 チーフマネージャー 上田 章子





多様な人財が活躍できる環境づくりに向け、体系的・計画的な教育を実施

TANAKAグループは、多様な“人財”が活躍できる職場の創造に取り組んでいます。そして、「気づかせる教育、業務に結びつく人財教育、就業時間の20%は教育」をモットーに、体系的・計画的な育成を行っています。

雇用・人材育成

雇用

TANAKAグループは、「貴金属is未来」に込められた考えの下、人財の多様性を大切にしています。新卒採用活動に注力するのはもちろんのこと、女性にとって優しい職場を目指しながら、外国籍の方、障がいのある方も能力に応じて採用しています。世界を舞台に繰り広げられる企業競争を勝ち抜き、「世界のTANAKA」となるには、このような多様な人財が活躍することが必須だと考えています。

なお、社員は企業の財産であるとの考えから、「人財」と表記しています。

人材育成

TANAKAグループでは、「気づかせる教育、業務に結びつく人財教育、就業時間の20%は教育」をモットーとし、経営の基本10項目の一つに教育を掲げています。教育を通じて、多様な人財が個々の能力を最大限に発揮できるようにし、一人ひとりの自己実現と満足度向上を促すとともに、生き生きと活性化された職場を創造することを目指しています。

入社時から退職までの全期間において、社員として必要な知識、キャリアなどを定期的に教育、指導する教育体系を整備し、計画的な人財育成を行っています。技術・生産系の体系的なプログラムは、「モノ造り大学」と呼んでいます。

■TANAKAグループ社員情報(2013年3月末現在)

社員数	3,509人 (3,731人)
国内	2,733人 (2,987人)
海外	776人 (744人)
平均年齢	41.0歳 (36.3歳)
男性	41.9歳 (37.1歳)
女性	38.8歳 (30.5歳)
障がい者雇用率	1.80% (1.63%)

※()内は前年度

モノ造り大学での新入社員の基礎教育

【カリキュラム内容】

地金の基礎、安全の基礎、環境の基礎、貴金属の知識、品質管理の基礎、モノ造りの基礎、特殊免許、意識改革、モノの流し方、他社見学(トヨタ自動車、デンソー、富士重工、日産自動車)、設備保全基礎、TSPIについて、機械加工実技、課外授業(ウォークラリー、座禅、写経)



TANAKA NOW

グローバルビジネスの未来を見据え、インドからの留学生を迎えています。

将来の有望市場であるインドとのビジネス展開を見据えて、インドからインターンシップを受け入れています。5月から7月までの2ヶ月間で、3年めとなる2013年は4名を田中電子佐賀工場、筑波事業所などで受入れました。受入れる側の我々も、グローバル化や留学生たちの意欲を肌で直接感じる良い機会となっています。





安全を何よりも優先することを基本に、安全文化の醸成に取り組む

「安全、衛生、環境の確保、災害の防止は全ての業務に優先する」を基本に、安全文化の醸成を重視する継続的な安全衛生活動を行っています。

安全衛生

■活動方針

安全に関する最高方針

安全、衛生、環境の確保・災害の防止は全ての業務に優先する。

地域社会の安全、環境の確保と従業員の安全、健康の維持、増進を全ての業務に優先して行う。

全ての従業員は、機械設備、環境設備を完全にし安全衛生、環境に反する事項は自ら厳格であると共に、たえず不安全行動、不安全状態を発見し、これを速やかに是正して労働災害、公害、健康障害の絶滅を期さなければならない。

■2012年度安全衛生方針と目標

方針 新たな安全文化を創り出しステージアップを達成する

重点施策 Ⅰ 第一線監督者を主体とした不安全撲滅活動を展開する
Ⅱ 危険予知能力に磨きをかけ、事故・災害を撲滅する
Ⅲ リスクアセスメントを活用して不安全行動・状態を撲滅する

活動指針 依存型ステージの卒業年度とし、独立型ステージへの入学準備を開始する

行動指針 自らの安全意識を再点検する

目標 事故・災害及び交通事故の前年比半減

基本的な考え方

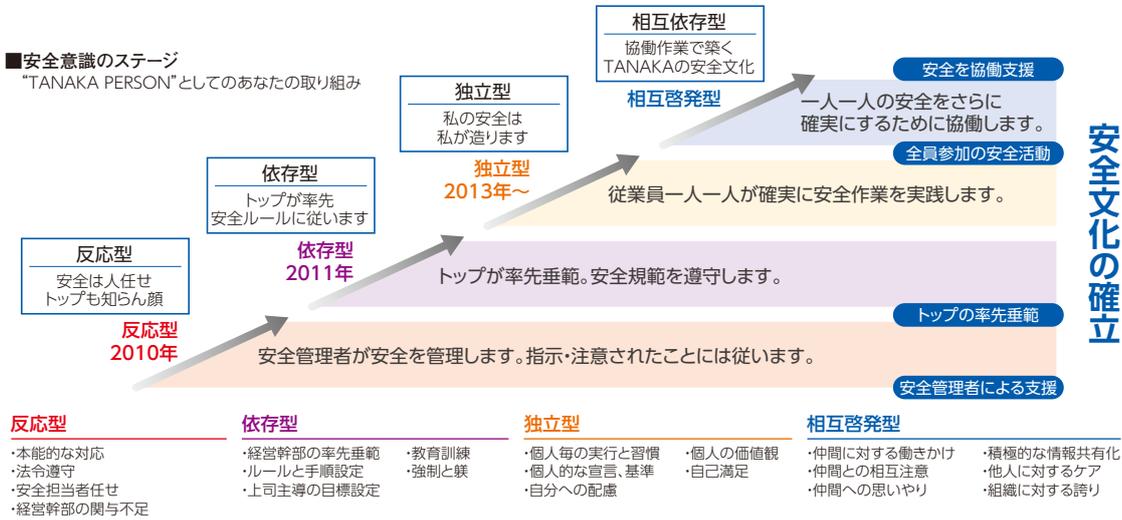
TANAKAグループでは、安全に関する最高方針に明記する「安全、衛生、環境の確保、災害の防止は全ての業務に優先する」を基本姿勢として、安全衛生活動を行っています。

「安全意識のステージ」の考えに基づき、個人の安全に対する意識を変化させ、より高度な安全文化・風土を醸成することにより、災害・事故の撲滅を目指しています。

安全意識のステージに沿った取り組み

TANAKAグループの安全衛生活動は、2011年度に、従来の中央主導、安全管理者任せの活動である「反応型」から、トップが率先垂範する「依存型」の活動へと移行しました。また、次のステージである「独立型」へ向けて、安全・衛生・環境を総括して管理する「SHE推進室」を各事業場に設置するなど、組織を大幅に変更しました。

そして2012年度は、事業場単位での安全管理活動をより確実なものとするため、規定類の整備と組織の見直しを行いました。さらに、「個人安全宣言」をはじめとする「独立型」へ向けた取り組みを開始しました。また、事業場およびグループ全体の安全文化の脆弱な部分を見出すための手段として、安全文化の評価手法を試行的に取り入れ、そこで見出された弱点の克服を図っています。



交通事故撲滅活動を通じた安全意識の向上

安全意識を「独立型」へと向上させることを念頭に、場内における労働災害の撲滅を図っていますが、特に「独立型」意識が顕在化する場としての交通安全活動を重視しています。原則として一人作業となる自動車の運転において「独立型」意識を目指し、KY(危険予知)と指差呼称の徹底、いわゆる「もらい事故」防止のための追突防止ステッカー貼付などを行い、交通事故撲滅を目指した活動と共に、安全意識の向上を推進しています。

■追突防止ステッカー



2012年度の主な安全衛生活動

各事業場を主体として活動しており、ヒヤリハット、安全巡視(巡思)等の指摘に対する的確・迅速な対応を行っています。また、災害を未然に防ぐための危険予知訓練(KYT)やリスクアセスメントにも積極的に取り組んでいます。2012年度における安全対策・改善事例を以下に示します。

富岡工場

排気ダクトが油煙発生箇所と離れていた為、夏場のエアコン使用時の風により油煙が吸い込まれず作業場内に充満していた。ダクトの改善を実施した。



富岡工場

非常停止スイッチが陰にあり、わかりにくい・押しにくいいため位置を変更した



市川工場

振動粉砕機の騒音対策のため、防音蓋を取り付けた。その結果、騒音レベルが第3管理区分から第1管理区分に改善された。



平塚工場

フォークリフトで作業場から出る時、歩行者が前を横切る。⇒危険エリアにチェーンを設置した。



安全専門部会と分科会

安全専門部会では重要課題を分科会の課題として検討しています。2012年度は前年度に引き続き、安全教育体系の立案(安全教育分科会)、現行規定類の取捨選択と管理方法の立案(規定類見直し分科会)に取り組みました。

安全教育分科会では安全教育体系を、職位(役割)と職能(技能)をレベル付けしたマトリクスとして立案し、抜けない安全教育と後継者育成を目指しています。



継続的な環境負荷低減を進めつつ、 環境経営の品質と透明性も向上

環境マネジメントシステムを基礎に、グループ全体で継続的な環境負荷低減に取り組んでいます。環境負荷を包括的に把握するとともに、環境効率指標や環境会計も活用し、環境経営の品質と透明性の向上に努めています。

環境マネジメント

環境マネジメントシステム

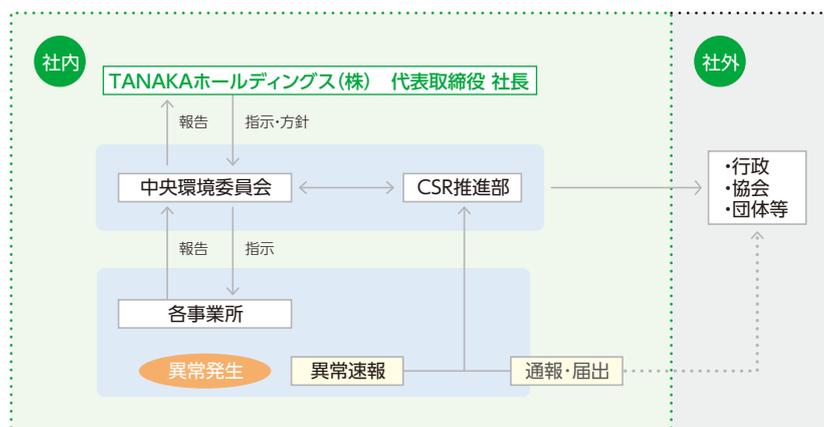
TANAKAグループでは、環境マネジメントシステムに基づき環境保全を行っています。環境保全への影響に大きく関与する製造部門・技術部門、および取引先とのネットワーク構築の核となる販売部門では、環境マネジメントに関する国際規格であるISO14001の認証を取得済みです。

CO₂排出削減、廃棄物削減をはじめとする主要な環境側面について、グループ全体での中期的な定量目標を定めるとともに、各事業所ではその施設や業務に即した目標を設定し、継続的な取り組みを進めています。

環境コンプライアンス

TANAKAグループでは、特に大気及び水質については原則として法令基準の2分の1を限度とする厳しい社内管理値を設定し、法令を遵守するだけでなく、環境負荷をできるだけ抑えた事業活動の実施を目指しています。さらに、異常発生時には早期対応・再発防止啓蒙のために社内「速報」による情報伝達を行うとともに、「通報・届出基準」に基づく関係行政当局への連絡体制を確立しています。

■異常発生時の対応体制



事業活動と環境負荷の状況

負荷

工場を拠点とした生産及び研究・技術開発やオフィス・店舗を拠点とした販売・管理など、各部門の事業活動に伴う環境負荷をINPUT・OUTPUTデータとして集計しています。TANAKAグループの事業活動は生産活動が大きな割合を占めており、環境負荷のほとんどは生産活動によるものとなっています。

■2012年度INPUT・OUTPUTデータ

•INPUT

電気	74,326千kWh
LPG	94t
都市ガス	2,967千m ³
重油	107kℓ
水	357千m ³



•OUTPUT

CO ₂ 排出量	34,878t
NO _x 排出量	11t
放流水(工程排水)	228千m ³
廃棄物排出量	11,708t
PRTR排出量・移動量(合計)	80t

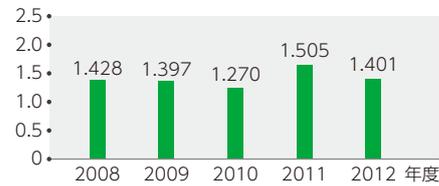
環境効率

TANAKAグループでは、単位付加価値あたりの環境負荷を削減し、より生産性の高い事業活動を展開していくために、環境効率指標を設定しています。

環境効率は、「付加価値÷CO₂排出量」と定義しています。付加価値は、「生産高-(材料費+外注加工費)」です。環境負荷の代表値としては、TANAKAグループの事業活動に最も密接に関係するCO₂排出量を用いています。

■CO₂指標:「環境効率」

環境効率=付加価値/CO₂排出量
付加価値=生産高-(材料費+外注加工費)



環境会計

TANAKAグループは、環境経営の品質と事業活動の透明性の向上を図るために、環境への取り組みを財務データと関連付ける「環境会計」を行っています。

なお、本報告書では以下を算出し、集計しています。

- (1)環境保全コスト
- (2)当社の環境活動の特徴を表した独自の分類によるコスト
- (3)環境省ガイドラインに準拠したコスト

■環境省ガイドラインに準拠したコスト(2012年度)

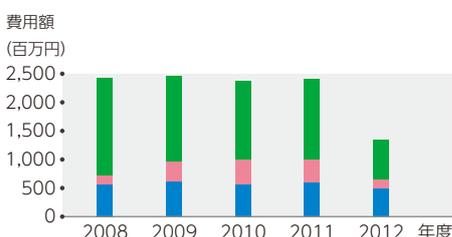
項目	費用額	投資額
事業コスト内		
①公害防止コスト	304.7 (395.3)	54.3 (72.1)
②地球環境保全コスト	0.1 (0.2)	
③資源循環コスト	165.5 (185.1)	
上・下流コスト	0.0 (0.0)	
管理活動コスト	177.9 (419.2)	9.4 (0.0)
研究開発コスト	695.4 (1,362.0)	138.0 (71.2)
社会活動コスト	0.0 (0.0)	
環境損傷コスト	0.0 (0.0)	
総合計	1,343.7 (2,361.8)	201.8(143.3)

■環境保全コスト(2012年度)

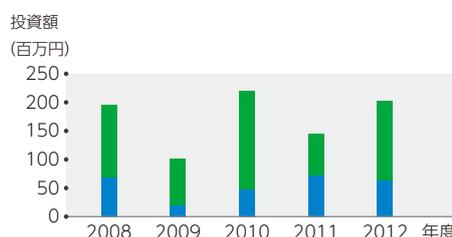
項目	主な取り組み	費用額	投資額
省資源・省エネルギーに関するコスト	生活排水再利用設備等	0.0 (0.9)	0.0 (0)
環境保全活動			
大気汚染防止に関するコスト	大気汚染防止のための排ガス・洗浄塔の新増設、測定費用、薬品費等	9.5 (62.7)	0.0 (0)
排水処理に関するコスト	排水処理設備の改修費、水質検査、薬品費等	327.6 (357.6)	63.8 (72.1)
廃棄物処理に関するコスト	産業廃棄物処理費	153.8 (166.7)	0.0 (0)
リサイクルに関するコスト	リサイクル処理費	13.0 (17.5)	0.0 (0)
その他地球環境保全に関するコスト	排気洗浄塔防音壁設備費、土壌調査費等	0.4 (4.9)	0.0 (0)
環境マネジメント活動	人件費、ISO14001定期審査料・年間登録維持料、CSR報告書作成費用等	143.8 (389.5)	0.0 (0)
事業環境研究開発費	・カドミフリー材の研究開発 ・有害排ガスの発生を無くすため、水素と酸素の化学反応を利用した燃料電池自動車等に用いる燃料電池用電極触媒の研究開発 ・有機物や有害物質の悪臭を消臭するための触媒の研究開発 ・自動車排ガス浄化触媒に用いる三元触媒の研究開発	695.8 (1,362)	138.0 (71.2)
環境損失及び補償	罰金・科料などはありません	— (—)	— (—)
総合計		1,343.7 (2,361.8)	201.8(143.3)

百万円 ※()内は前年度

■環境保全コスト



■環境保全活動



社員の環境意識向上を基礎に、 目標達成に向けた改善策を着実に実施

社員一人ひとりの環境意識向上を基礎として、CO₂排出削減、廃棄物削減を中心とする目標の達成に取り組んでいます。それぞれの現場に適した改善策をさまざまな角度から考案し、コツコツと積み上げています。

環境負荷低減への取り組み

CO₂排出削減

地球温暖化の原因物質の一つである二酸化炭素(CO₂)排出量の削減に取り組んでいます。

CO₂削減は、2013年度までに2006年から2008年度の排出量の平均値から25%削減することを目標に活動しております。

2012年度は目標20%削減に対して、実績として23%削減しました。

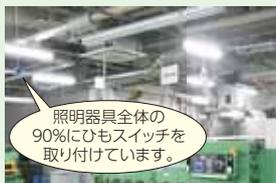
2013年度は25%削減の目標達成に向け、全員参画での活動をより活性化します。

■CO₂排出量と削減率



改善事例1

照明消灯によるCO₂削減
▲2.60t-CO₂/年(伊勢原工場)



改善事例2

避難誘導灯のLED化でCO₂削減
▲2.9t-CO₂/年(湘南工場)

型式	従来型誘導灯	LED誘導灯
写真		
平均寿命	約6,000時間	約60,000時間

改善事例3

電気炉出口部への断熱材貼付により放熱抑制でCO₂削減
▲2.0t-CO₂/年(平塚工場)



その他改善事例

年末年始の設備停止において、「電気を止められない設備」を抽出し、それ以外の設備「止められる設備」を確実に停止する事でCO₂削減を試みました。(平塚工場)
※「止められる設備」に比べ、「止められない設備」の数が少ないことに着目し、該当設備の抽出を効率良く行う事が出来ました。

TANAKA NOW

TANAKAグループはCO₂削減に向けて一丸となった活動を行っています。

TANAKAグループでは2014年3月までに、CO₂発生量を、2006年～2008年3年間の年平均25%を削減する事を目標に全社一丸となって省エネ活動に取り組んでいます。

特にエネルギー使用量の多い生産部門を抱える田中貴金属工業(株)では、この25%削減という大きな目標達成に向けて、全工場が組織的に活動し、各工場においては全員参加をモットーに職場単位のコツコツ活動を行った結果、大きな成果を挙げております。もの造りを担う者として、今後も環境負荷低減に向けて積極的に取り組みます。

PGM系事業部長
AuAg系事業部長 園田 定敏



■ 廃棄物削減

産業廃棄物の削減では、2013年度までに、2006年から2008年度排出量の平均値から50%削減を目標に活動しております。

2012年度目標値の46%削減に対して、実績として16%削減にとどまりました。

2013年度は50%削減の目標達成に向け、大規模な設備導入で廃棄物削減を実現し、目標達成に挑戦します。

■ 廃棄物排出量と削減率

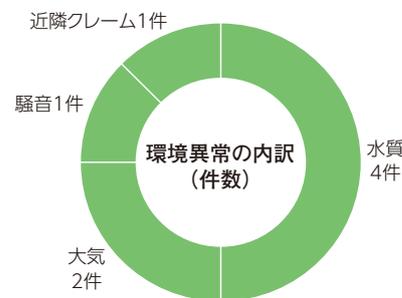


■ 環境異常

2012年度は前年度の15件に対して8件と減少しています。発生した環境異常に対しては、発生源対策を講じ、再発防止に努めています。

発生源対策の一例として、スクラバーの運転管理の適正化や雨水系排水の水質監視の適正化等を実施しています。

■ 2012年度の特徴



■ 社内管理値オーバー発生件数 (社内管理値は法令基準値の1/2)

年度	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
発生件数	22	14	9	8	8	15	8

■ その他の取り組み

環境配慮した製品の開発

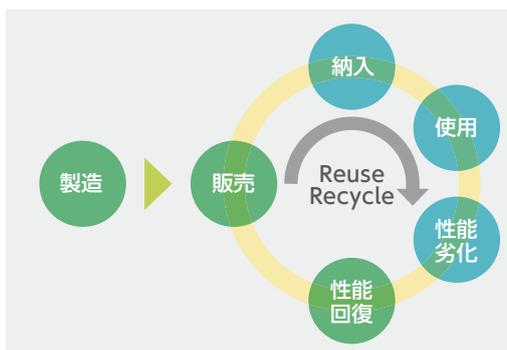
■ 燃料電池用電極材料の開発、製造、販売をしています。

省エネだけでなく、創エネにも着目した製品として、燃料電池用電極材料の開発に注力し、2013年度より専用の製造工場(神奈川県平塚市)が竣工します。燃料電池は空気と水素を反応させ、その際に発生するエネルギーを電気エネルギーとして取り出す装置を指します。TANAKAグループでは、限りある貴金属資源を電極材料の心臓部として、開発、製造、販売を行っています。

貴金属製品の循環使用 ～製造・販売・<使用・性能劣化>・性能回復～

■ 性能劣化したメタルハニカム触媒を性能回復してお客様へ再提供します。

TANAKAグループではメタルハニカム触媒を主に脱臭用途で製造・販売し、大気環境保全、悪臭除去に貢献しています。さらに、限りある貴金属資源をリユース(再使用)するため、お客様の使用済触媒をお預かりし、性能回復を行った後、返却しています。製造・販売・性能回復し、資源の有効利用に寄与しています。





企業倫理に沿った経営のための仕組みをグループ全体で運用

法令遵守のみならず、企業倫理に沿った公正で健全な経営を実践しています。コンプライアンスをリスクマネジメントの一環として捉え、問題点を迅速に把握し、対処する仕組みをTANAKAグループ全体で運用しています。

コンプライアンス

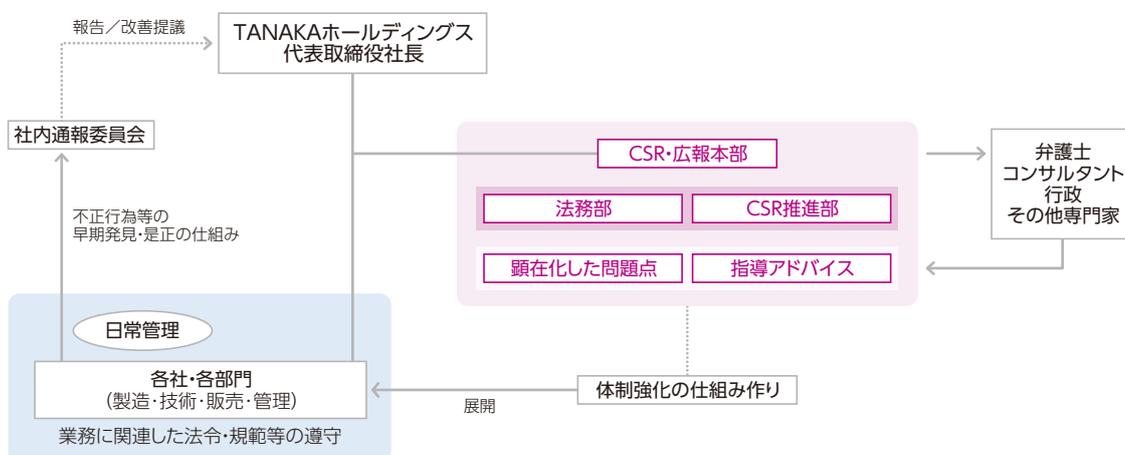
基本的な考え方

TANAKAグループは、法令を遵守することはもとより、企業倫理に沿った公正で健全な経営を実践します。さらに、各国および各地域の文化や慣習を尊重した事業活動にも努め、豊かで安全な社会の持続可能な発展に貢献します。

推進体制

コンプライアンス推進は、リスクマネジメントの一環として位置づけています。コンプライアンスに関する問題点や外部からの情報をCSR・広報本部に集約し、TANAKAグループ全体に展開しています。また、個別の重点分野に関する委員会を適宜設けているほか、教育・研修も実施しています。

■コンプライアンス体制



紛争鉱物の不使用

TANAKAグループは、貴金属に関する調達方針を定め、国際的に問題視されている「紛争鉱物」の取引を防止しています。

紛争鉱物とは、非人道的な行為を行う武装勢力が活動する国で産出され、その購入が武装勢力の資金源となり、さらなる紛争を招くおそれがある鉱物を指します。米国の金融規制改革法では、コンゴ民主共和国(DRC)およびその周辺国から産出される鉱物のうち、スズ、タンタル、タングステン、金が対象として指定されています。

反社会的勢力への対応

反社会的勢力を社会から排除することは、社会の秩序や安全を確保する上での重要課題です。TANAKAグループでは、行動憲章・行動規範に関連規定を設けることに加えて、反社会的勢力対応に関する基本規程を策定し、これらに則って対策を講じています。主に、反社会的勢力対応の担当部署・責任者の設置、取引先との契約内容の見直し(暴力団などを排除する条項を追加)、所轄官庁との連携・情報共有などを行っています。

知的財産権の保護

特許権、実用新案権、商標権、意匠権、著作権などの知的財産権およびノウハウは、企業の重要な財産であるとの認識のもとに、積極的に知的財産権の創出に努めています。2012年度は、TANAKAグループ全体で48件の特許を取得しました。

新技術の研究、製品・商品の開発、生産および販売にあたっては、第三者の知的財産権を尊重し、故意に侵害しないことはもちろんのこと、他社からの侵害行為に対しては各国の法令に則って厳正に対処しています。

■2012年度に取得した特許(例)

公報番号	発明の名称
特許第4970851号	・金コロイドの製造方法及び金コロイド
特許第4976563号	・貴金属製品買取システム
特許第4989771号	・排ガス浄化触媒の再生方法
特許第5053456号	・半導体装置接続用高純度銅細線
特許第5185035号	・水素透過性能に優れたPd-Cu系合金
特許第5140053号	・硝酸パラジウム溶液の製造方法

貴金属に関する調達方針

- 弊社は、その国の金属が「紛争鉱物」と指定される国で生産・精錬された如何なる貴金属も購入・調達しておりません。
- 弊社は、「紛争鉱物」の生産企業或いは取扱い企業と、貴金属の取引は一切行っておりません。
- 弊社は、「紛争鉱物」と関わりやつながりのある団体への協力、支援、関与、及び契約は一切ございません。

TANAKAグループにおける反社会勢力対応の基本原則

- ① グループとして組織的に対応
- ② 外部専門機関(警察、暴追センター、弁護士等)との連携
- ③ 取引を含めた一切の関係を遮断
- ④ 有事においては、民事・刑事の両面から断固たる法的措置
- ⑤ 裏取引や資金提供は行なわない

TANAKA NOW

現場情報の積み重ねがコンプライアンス強化へ

コンプライアンス(Compliance)とは、顧客から寄せられる不平や不満、または社員からの社内通報などに真摯に対応し、企業損害を最小限に抑える活動です。最近、新聞や雑誌などで「コンプライアンス=法令遵守」と訳されているのをよく見かけますが、そうではなく「組織防衛」にあると考えております。組織防衛を支えるもっとも大切なことは「悪い報告をした部下を誉めよ。悪い報告をしなかった部下を罰せよ」です。現場で何が起きているか?その核心となる事実を真っ先に把握してこれに対応することがコンプライアンスの要であると考えております。

CSR・広報本部 法務部 チーフマネージャー 杉山 貴俊





常にお客様との約束を守るとともに、期待を超える対応も追求

お客様の信頼と期待にスピーディーに応えることを旨とし、常に感動を創出することを目指しています。確かな品質の実現によってお客様との約束を守りながら、期待を超える対応にも注力しています。

お客様への対応

顧客志向の基本姿勢

TANAKAグループは、企業理念においてお客様の信頼と期待にスピーディーに応えることを掲げ、常に感動を創出することを目指しています。常に“約束を守る”ことを通じて信頼関係を築くとともに、お客様の期待を超える対応に努め、真の価値を提供するパートナーであり続けることに全力を挙げています。

確かな品質の実現

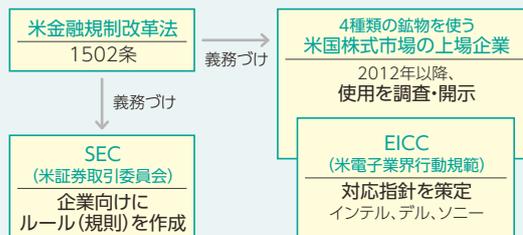
TANAKAグループは、お客様との“約束を守る”ために、製品・サービスの品質と安全性の確保を徹底しています。創業当時から一世紀以上におよぶ事業活動で蓄積され、磨き上げられてきた「確かな伝統の技術(つたえのわざ)」を結集し、確かな品質を実現しています。さらに日本全国に販売拠点を配置し、地域に密着した迅速な販売体制を確立し、世界のマーケットにおけるニーズを的確にお応えできる製品の供給とサービスを提供しています。

「紛争鉱物」米規則への対応

2010年7月に米国で成立した金融規制改革法により、米国上場企業は、^{※1}紛争鉱物(コンフリクト・メタル)の使用の有無について米国証券取引委員会(SEC)への報告義務が発生します。

そのため、米国の上場企業はサプライチェーンに対し、紛争鉱物を使用しているか原材料にまで遡るトレーサビリティの強化を求めています。

田中貴金属工業(株)は金において、調達・精製・出荷する金地金や金属材料に関して、紛争鉱物を取り扱っていないことを認証する、^{※2}EICCコンフリクトフリー精錬業者(CFS:Conflict-Free Smelter)監査認証を2012年6月12日取得しました。



※1 紛争鉱物(コンフリクト・メタル)

コンゴ民主共和国(DRC)およびその周辺地域の紛争、人身売買、奴隷、強制労働、児童労働、虐待、戦争犯罪などの非人道的行為、テロリスト活動、マネーロンダリングなどの不正行為の資金源として関わる鉱物(金、スズ、タンタル、タングステン)。

※2 EICC(Electronic Industry Citizenship Coalition)

電子機器関係メーカーや大手サプライヤーによって構成された、現在世界で唯一、紛争鉱物(コンフリクト・メタル)のトレーサビリティの監査を実施している電子業界団体。

ジュエリーの品質へのこだわり

GINZA TANAKAは、美しく、確かな品質のジュエリーをお届けするために、工場からの出荷時、受け入れ時、店頭へのお客さまへの出荷時の3度にわたる厳しい検品を行います。宝石の評価・ビューティーグレード、表面の状態、形状・サイズ、宝石を留める爪の幅・厚み・強度、着け心地など、品質に関わる幅広い項目につ



いて、10倍率のルーペを使用して一つひとつ丁寧に確認しています。合格したジュエリーには、品質を保証する「ホシエスマーク」を刻印しています。

なお、ダイヤモンドについては、1石が0.2カラット以上のものには第三者の鑑定書(2社に評価を依頼し、より厳しい方を採用)を添付しています。また、「キンバリープロセス(※1)」、「システム オブ ワランティアー(※2)」を遵守し、紛争とは関係のない地域のダイヤモンドのみを取り扱っています。

※1 キンバリープロセス

キンバリープロセス参加国間で輸出入されたダイヤモンド原石は、開封できない密封された容器で運ばれます。ダイヤモンド原石には、紛争と関係のない地域から供給されていることを示す原産地証明書(キンバリープロセス証明書)が添えられています。

※2 システム オブ ワランティアー

ダイヤモンドやダイヤモンド宝飾品を取引する際、紛争とは関係のない地域から採掘されたものであることを保証する宣誓文が記載されたインボイス(商品伝票)が添付されていなければなりません。

技術開発

TANAKAグループは、貴金属の新たな用途やより効率的な製造・利用方法などを生み出す技術開発を通じて、お客さまと社会にさまざまな価値を提供しています。

その代表例に、自動車や家庭で用いる分散型電源として期待が高まる燃料電池に用いられる触媒があげられます。田中貴金属工業(株)は、永年培ってきた貴金属触媒技術と電気化学技術を活用し、燃料電池の電極向けに、白金を用いた触媒を開発・供給しています。今後の研究開発では、燃料電池用触媒の高耐久化と、高性能化による白金使用量の削減を目指します。また、2013年春には燃料電池用触媒を開発・製造する専用工場が竣工し、さらなるコストダウンに向けた生産工程の改善にも取り組みます。白金のリサイクル技術も活用して、燃料電池の普及に向けたトータルサポートを進めていきます。



燃料電池用触媒

顧客からの評価

お客さまの生産活動を“陰で支える”TANAKAグループの取り組みは、さまざまなお客さまから表彰などの形で評価をいただいています。これを励みとして、今後もさらに取り組みを進めていきます。



(左)ベストパートナー賞
(右)最多採用パートナー賞

原価改善貢献優良賞

■お客さまからの主な表彰(2012年度)

お客さま名	受賞名	表彰を受けた理由
函館エヌ・デーケー株式会社	最優秀サプライヤーズ賞	総合的な評価
Seagate Technology International	Appreciation Award	総合的な評価
日本電気硝子株式会社	ベストパートナー賞 / 最多採用パートナー賞	VA提案への表彰
パナソニック株式会社 AIS社	原価改善貢献優良賞	VA提案への表彰
ASE	Best Supplier Awards	ベストサプライヤー2012年として
Carsem	Letter of Appreciation(感謝状)	2012年1~6月、2012年7~12月の2期にわたり評価スコアA
UTAC	Best Site Awards	ベストサプライヤー2012年として
On Semiconductor Group	Perfect Quality Platinum Award	2009~2012年の品質、サービス、技術、納入、コストが最優秀
ASE(Weihai), Inc.	ASE Group Best Supplier	2012年優秀サプライヤー



コミュニケーションを活発に行い、 信頼の絆を強める活動を実施

「貴金属がもたらすゆとりある豊かな社会の実現と、美しい地球の未来に貢献する」という大きな目標を掲げ、社内外における活発なコミュニケーションに努めながら、信頼の絆をより確かなものとする幅広い活動を行っています。

社会貢献活動

基本的な考え方

TANAKAグループでは、コミュニティへの参画およびコミュニティの発展のため、地域コミュニケーションから文化芸術発展・災害被災地支援・地球環境保護に至るまで、「ゆとりある豊かな社会の実現への貢献」に近づけるよう、グループ会社各社の強みを活かした様々な活動を通じて社会貢献に取り組んでいます。

スポーツ振興支援

●日本障害者スポーツ協会オフィシャルパートナー活動

2012年3月1日から1年間、日本障害者スポーツ協会による、ロンドン2012パラリンピック日本選手団を応援する活動に協賛しました。2013年3月1日からはソチ2014冬季パラリンピック日本代表選手を応援する活動に協賛しています。



田中貴金属グループは
ロンドン2012パラリンピック日本選手団を
応援しています。



ソチ2014冬季パラリンピック
日本代表選手を応援しています。



ジャパンパラ競技大会の表彰式

●市民マラソン大会協賛

2013年2月24日(日)に行われた東京マラソン2013において、同大会の上位3名に進呈される金・銀・銅メダルと、完走者に配布する記念メダルを製作しました。ランナーの皆様の健闘を称えるメダルを製作することで、GINZA TANAKAは東京マラソン2013を積極的に応援しています。



東京マラソン2013の金・銀・銅メダル

人材育成・文化芸術の発展

●全国高等専門学校ロボットコンテスト(高専ロボコン)協賛

TANAKAグループでは、アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト(高専ロボコン)に2013年から協賛しています。応援メッセージ「君のひらめき輝かせ!未来へ発進!」を掲げ、日本のものづくりの未来を担う若者をサポートしています。



高専ロボコン

●貴金属に関する研究助成金制度

本助成金制度は、「貴金属が拓く新しい世界」の実現に向け、貴金属を使用した研究・開発を行なう国内の機関への支援として、1999年度から毎年実施されています。第14回目となる2012年度は、「貴金属が貢献できる新しい技術、商品の実用化に向けての研究・開発」をテーマに、あらゆる分野から研究を募集した結果、合計35件の研究に対し研究助成金を授与しました。

地域環境の保全

●地域清掃

田中電子工業(株)では、地元主催の清掃活動に参加し、地元中学生と一緒に役場を中心に清掃を行いました。参加者は総勢200名にもなりました。



地域清掃

●富士山清掃

第3回目の富士山清掃ボランティア活動に本社を中心に関東圏内の事業所従業員が参加しました。本活動で940kg(前年は630kg)のゴミを回収しました。地球環境の負荷を軽減する貴金属リサイクルビジネス「RE:TANAKA」を展開する当社では、自然環境の保護活動を支援するNPO法人に協力し、本清掃ボランティアと共に「RE:TANAKA」の利益の一部から寄付を行っています。



富士山清掃

寄付・募金活動

●東北の復興支援

第3回目となる東北復興支援ボランティアは、TANAKAグループの従業員が所有する絵本を集め、いわき市の小学校、幼稚園に約1,700冊を寄贈しました。

その際に募金活動を合わせて行い、あしなが育英会に寄付しました。



絵本の寄贈



📣 TANAKA NOW

社会貢献活動でコミュニケーションの輪が広がりました。

今はもうしまい込んでいた息子の絵本が役に立つなら!と思い、喜んで参加しました。今回は多くの社員が職場にしながら支援に参加でき、活動は家族や知人にも広がり…たくさんの絵本と優しさが集まったことに感激しました。

湘南工場(部品・回収S) 佐々木 晴子

多角的なアプローチで リスクに備え、 非常時の事業継続を確保

TANAKAグループは、災害等の非常時においても製品の安定供給への責任を果たすために、耐震対策、生産拠点の分散配置、本社機能の代替性の確保、決済機能の委譲といった多角的なアプローチで、事業継続の確保に取り組んでいます。

東京本社

大阪本社

製品の安定供給への責任

TANAKAグループは、幅広い産業分野へグローバルに製品を供給しています。安定供給への重大な責任を果たすため、従来から製品在庫の確保、生産拠点の国際的な分散化といった対策を行ってきました。2011年の東日本大震災を機に、さらにBCP(事業継続計画)への取り組みを強化しています。

「第二の本社」の設置

被災直後から直ちに、また長期にわたり重要業務を継続するためには、「第二の本社」が必要です。TANAKAグループ全体を統括管理するTANAKAホールディングスは、2012年4月から大阪本社を全面稼働し、共通の情報システムに基づき、グループ全体の管理業務をどちらの本社でも遂行できるようにしました。これによって、仮に首都圏あるいは関西圏が大災害に見舞われた場合にも、お客様からの受注、製造工程への手配、工場からお客様への出荷といった主幹業務の機能を維持できます。大阪本社には、東京本社が交代で常駐し、非常時にも円滑に対応できるようにしています。

■2つの本社による
基幹業務の継続確保

チームA
東京本社から、2つのチームが
交代で出張し、3か月ずつ大阪本社に常駐



チームB
常時、グループ全体の
管理業務などの基幹業務を遂行可能に

生産拠点の分散配置の推進

TANAKAグループでは、生産拠点の分散配置を進め、いずれかの拠点が被災した場合の代替生産を可能にしています。幅広い電子部品に使用される銅製ボンディングワイヤは、従来の日本、シンガポール、中国に加え、2012年2月には台湾での生産も開始しました。また、使用済み自動車排ガス触媒に含まれる白金族金属の回収・精製については、2012年に千葉県袖ヶ浦工場を新たに稼働させ、国内2拠点体制としました。

決済機能の委譲

貴金地金の調達は事業継続に不可欠であり、そのためには決済機能が常に維持される必要があります。TANAKAグループでは、東京本社の被災時に大阪本社が決済機能を持つことに加えて、国内金融機関の機能が止まった場合には海外拠点に決済権限を委譲する仕組みを構築しました。

セキュリティ

企業の社会的責任の一つとして、ステークホルダーの方々に信頼と安心を提供する義務があります。そしてそれは事業を継続する上での企業の重要な役割の一つでもあります。TANAKAグループではその信頼と安心を確保するため、「自分の会社は自分で守る」という方針を打ち出しており、その方針の下グループの工業製品事業を担う田中貴金属工業(株)では2013年4月から19名のセキュリティ専任者を増員しました。現在総勢40名の社員が全国の田中貴金属工業(株)の工場、事業所のセキュリティを確保するために勤務しています。

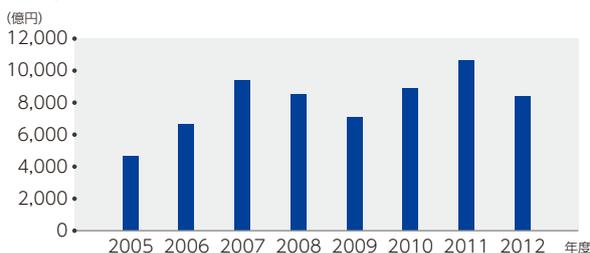
TANAKAグループ業績

■業績要約

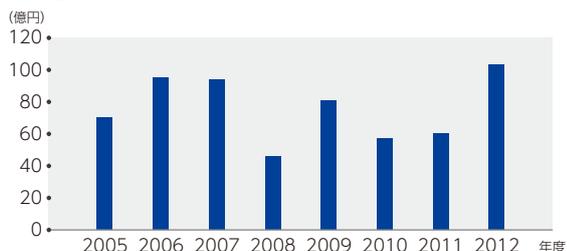
	2011年度	2012年度	前年度比
売上高	1,064,081	839,264	78.9%
税引前利益	12,696	17,141	135.0%
当期純利益	6,046	10,338	171.0%
総資産	291,608	401,485	137.7%
自己資本比率	51.5%	40.8%	—

百万円

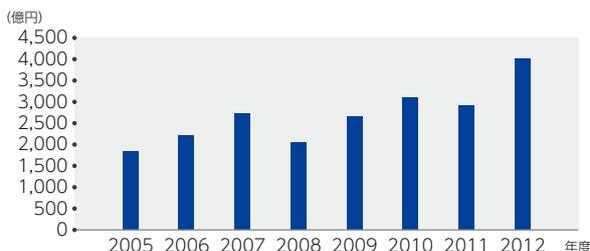
売上高



当期純利益



総資産



本報告書について

■編集方針

TANAKAグループCSR報告書は、TANAKAグループのCSR(企業の社会的責任)の取組みをステークホルダーの皆様へ報告し、コミュニケーションを図っていくことを目的に発行しています。

なおTANAKAグループは2004年より「環境報告書」を発行し、2007年からは「CSR報告書」に改め発行してきましたが、今回で10回目の発行という節目を迎えるにあたり報告書のデザインを刷新いたしました。表紙デザインは従来の絶滅危惧種から全体のデザインコンセプトである「贈り物」をイメージしています。「貴金属がもたらすゆとりある豊かな社会の実現と、美しい地球の未来に貢献する」TANAKAグループのCSR活動を「次世代への贈り物」と位置づけました。

皆様のお声をTANAKAグループの今後の取組みに活かしていきたいと考えておりますので、ご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。

■対象期間

2012年4月1日～2013年3月31日

但し、各テーマに沿った会社の活動の全体像を知っていただくために、一部対象期間外の内容も掲載しています。

■対象範囲

TANAKAホールディングス株式会社と連結子会社を含むグループ全体を対象としています。
(海外拠点を除く)なお、対象範囲が異なる場合は当該箇所に表示しています。

■発行時期

2013年7月

■参考ガイドライン

(一財)日本規格協会「ISO26000:2010」

■ウェブサイト

本報告書の閲覧はバックナンバーを含め、以下のウェブサイトをご利用ください。
<http://www.tanaka.co.jp/csr/index.html>

■発行責任部署

TANAKAホールディングス株式会社 CSR・広報本部 CSR推進部
〒100-6422 東京都千代田区丸の内2-7-3 東京ビルディング22階
TEL 03-6311-5506(直) FAX 03-6311-5508 ホームページ <http://www.tanaka.co.jp/>



第三者所感

淑徳大学経営学部教授 清水 正道

【略歴】

横浜国立大学経済学部卒業。富国生命、日本能率協会を経て2002年から現職。経産省、環境省等の委員歴任。現在、日本広報学会理事長、日本パブリック・リレーションズ協会理事を兼務。主要著書に「環境コミュニケーション」「人にやさしい会社―安全・安心、絆の経営」「広報・PR概論」「CC戦略の理論と実践―環境・CSR・共生」「環境経営学の扉」「社員のためのCSR経営入門」「CSRイニシアチブ」「CSRマネジメント」などがある。

TANAKAグループは田中貴金属工業を中核とする各種工業用貴金属製品のリーディングカンパニーであり、欧・米・アジアの3極で約3,500人が働く世界的企業である。近年、これまで蓄積してきた技術を活用し、環境浄化、グリーンエネルギー、リサイクル、ナノ・バイオテクノロジーなど先端技術分野に進出し、120年余の社歴の中でもエポックを画する時代を迎えようとしている。

その中で本CSR報告書は、10回目を迎えてイメージを刷新し、かなり読みやすい内容となった。私は3つの点に関心を持った。

2013年版の特徴

その第一は、読みやすさとともに企業活動の躍動感がさらに感じられるようになったことである。タイトルバックの社員の写真や各頁に掲載された役員・社員のコメントによって、製品だけでなく「人材」が価値の源泉として、社会からの信頼や期待を担っていることが伝わってくる。

第二に、世界標準への適合努力が表現されたことである。1頁には貴金属の公認審査会社への就任、12頁には国際規格である環境マネジメントシステムの各事業所での認証取得、そして17頁には貴金属の国際調達方針のもとで紛争鉱物を使用しないことがさりげなく記載されている。

第三に、冒頭のトップメッセージの中で新エネルギーやライフサイエンスなど6事業分野を対象とするグループ活動の選択と集中戦略が表明されるとともに、経営組織においてISO26000を基軸としてCSR活動の推進が図られている。このことは世界的な潮流の「責任ある競争力」を追求する態勢が整いつつあるという印象を受ける。

責任ある経営と競争力向上

CSRを踏まえた経営のもとで高い競争力を獲得するのは容易なことではない。CSRに経営としてチャレンジしていくためには、まず役員・社員一人ひとりが理念・技術(手法)・行動を共有し、その成果を客観的にしかも生き生きと表現しつつ重要なステークホルダーと対話を重ねることであろう。本書はチャレンジシップ(1頁)の重要なツールとなるはずだが、そのためには事業をさらに的確に捉えた活動の透明性を一層上げていくことである。

他の業界にも言えることだが、外から見た企業の姿と実態との乖離は、情報/材料革命の進展を受け

てますます進行している。この中でTANAKAグループの事業や社会活動の全容をわかりやすく示すことは、信頼や期待を信用へと高めていくロイヤル・ロードとなるはずだ。

尋ねてみたい成果と課題

私は工場見学の際に、社員の方々が製品の品質や信用維持のために並々ならぬ努力を払っていることを目の当たりにした。しかし、そのことが報告書から十分に窺えない。なぜか?それは、取組内容や関連データの説明が十分ではないからである。

たとえば、人権・労働慣行の頁(8~11頁)だけ見ても、障がい者雇用率を達成できたのはなぜか?多様な人材育成でどんな能力が獲得されたのか?社内通報制度の利用件数は?モノ造り大学での新入社員教育の具体的なカリキュラムは?安全文化の評価手法とはどんなものなのか?

また環境では、法令基準の2分の1を限度とする厳しい規準設定とあるが、たとえば自然河川への排出規準値は?2012年度の環境負荷INPUT量では電気・都市ガス・重油・上水の使用量の減少は各事業所でのような努力によるのか?2012年度のCO₂排出削減目標を上回る実績は、どのように達成されたのか?工場ではPRTR法対象物質が使用されているので環境異常(15頁)の原因になっていないか?廃棄物削減が2年度にわたって大幅未達となっているのは、目標設定の問題なのか、それとも取組方法の問題なのか?

さらに環境会計のデータは例年掲載されているが、経営組織においてどのように活用されているのか?など尋ねたい点が多々ある。こうした点が補充されれば、TANAKAグループのCSR報告書は、「人が輝くすごい会社」のありようを伝えるものへと、一歩前に進むだろう。

TANAKAグループより

TANAKAグループのCSR報告書は環境省の環境ガイドラインに沿った内容で、2004年より毎年発刊され、絶滅危惧種を表紙のデザインとし、環境問題への取り組みを強く訴えてきました。しかし近年、企業を取り巻く環境は大きく変化し、企業には単に環境問題のみにとどまらず広範囲な社会的責任を持った取り組みが求められています。このような背景のもと、既に本報告書は昨年度より、TANAKAグループのCSR活動の機軸であるISO26000に設定された7つの中核主題にTANAKAグループとして重点的に進める3課題(セキュリティー、BCP/M、リスクマネジメント)を加えた10の課題を中心に構成しております。さらに、本年度は10周年を迎えるにあたり、デザインを一新することとなりました。

装いを新たにしたCSR報告書2013は、TANAKAグループの取り組みに対する一般の方々の理解をより一層深めていただきたいとの願いを込めて作成しましたが、第三者所感に“読みやすさと躍動感が感じられるようになった”とのコメントをいただき、改めて今回の報告書を通じて、我々の思いが全てのステークホルダーの方々へ伝わ

るであろうと確信しました。また、本報告書が“企業活動の透明性を一層高め、ステークホルダーとの対話を重ねていくため”の重要なコミュニケーションツールである事は認識しておりましたが、今回の所感を受けその思いを強くしました。

さらに、CSR報告書2013のアンケートには、その質問内容を充実させることによりステークホルダーの方々の知りたい情報を的確に吸い上げたいとの思いを込めております。

最後に、第三者所感の“尋ねてみたい成果と課題”では、本報告書をより充実させるためにさらに記載すべき点が多々あるとの貴重なご意見をいただきました。いただいたご意見は、アンケート結果とあわせて、TANAKAグループのCSR活動及び次年度以降のCSR報告書に反映させていきたいと考えております。



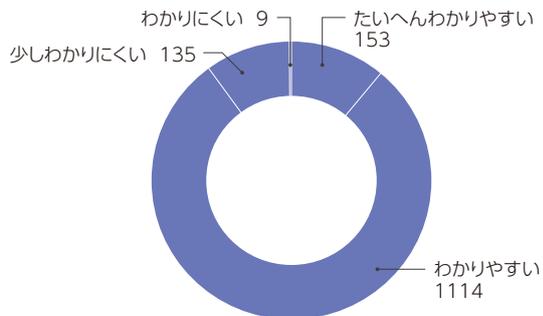
CSR・広報本部 副本部長
佐藤 英昭

アンケート結果

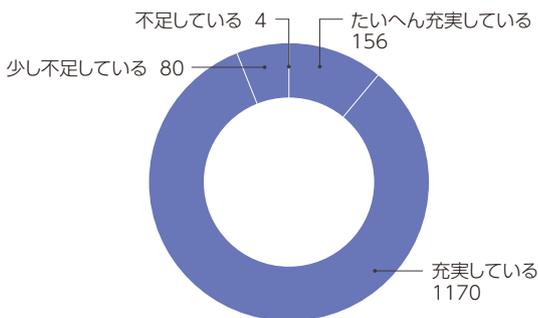
■どのような立場でお読みになりましたか?

得意先・取引先	17
田中貴金属グループ事業所近隣住民	8
学生	0
企業のCSR・環境担当者	11
報道関係	0
政府・行政関係	1
研究・教育機関	0
環境団体	2
当社従業員(アルバイト・パート・請負社員・OB社員含む)・家族	1,392
その他	18
合計	1,449

■読みやすさはどうでしたか?



■内容の充実度はいかがでしたか?



■特に興味を持たれた記事は何ですか?(複数回答可)

